

【分離不安】

○イヌの社会化と飼い主の理解

イヌの祖先であるオオカミは、集団による群れの生活とリーダー支配の階級によって成り立っていましたが、現代の飼いイヌの生活はどうでしょうか？
飼いイヌにとっては、飼い主と少数の家族が仲間であり、群れのメンバーであると考えているはずですから、この群れ社会を機能していくには、飼い主と飼いイヌのお互いの順位づけとコミュニケーションが重要になってきます。



○分離不安とは

分離不安とはイヌの主な問題行動の1つで、愛着をもっている人（飼い主）から無理やり引き離され、不安を感じる程度が過剰だったり、あるいは飼い主が外出などでイヌのそばから離れる状態を早めに感知して過度に不安状態に陥る反応をいいます。その結果、次のような問題行動や身体的な変化が現れます。

飼い主やヒトの社会生活に支障をきたしたり迷惑になるような行動

- ①ものを壊すなどの破壊的な行動
- ②過剰に吠える
- ③不適切な排尿や排便行動

不安による身体的変化

- ④皮膚病、あるいは嘔吐、下痢、震えなど

○対策

このような異常行動は単にイヌの気質的、性格的な問題ではなく、多くはヒトの心の病気と同じで飼いイヌの精神状態の不調を原因として対処すべき問題です。

それには飼い主への過度な愛着や依存心、不安などを軽減するために、家庭生活でのトレーニング（行動療法）が必要になります。

飼い主の飼いイヌに対する接し方や態度がイヌの行動に影響を与える例とその対処法をあげます。

飼い主の誤った行動によるイヌの行動

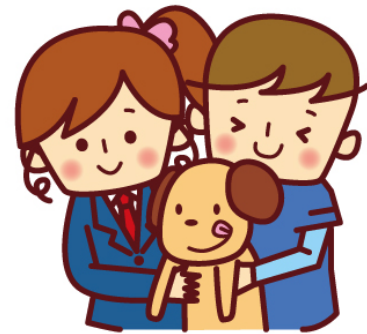
- ①飼い主の態度と行動に一貫性がない時、たとえばイヌの同じ行動に対してあるときは褒めながら別の機会には叱ったりすると、イヌは混乱し緊張して欲求不満となり、「かく」、「なめる」など身繕いをするような、その場の状況に関係ない行動をとるようになります。（転位行動）

- ②飼い主がヒトと同じような態度で飼いイヌに接してしまうと、イヌは自らを支配的立場に順位づけしてしまいます。（擬人化）その結果、「言うことを聞かない」や「飼い主を威嚇する」などの行動をとるようになります。

対処法

- ①外出時の動作を何回か繰り返して、飼い主の動作に慣れさせて不安を徐々に軽減していきます。（系統的脱感作）
- ②外出時におやつやおもちゃを与えるなど、報酬により望ましい行動パターンにもっていきます。（オペラント条件付け）
- ③飼いイヌの方から散歩や遊びの誘いがあっても一時的に無視したりして言うことは聞かず、食事やおやつを与えるときも、あくまでも飼い主がイニシアチブ（主導権）をとった行動をこころがけます。
- ④外出時、日頃愛用している敷物や飼い主の匂いのついたバスタオルなどを与えておくことで不安や恐怖から一時でも解放され、安心した行動がとれる助けとなります。

これらのことを理解したうえで、家族全員が飼いイヌに対して常に同じ態度で臨まなければなりません。食事、遊び、散歩、グルーミングなどの日常管理を充分適切に行い、「すわれ」「まで」「ふせ」「つけ」などの服従訓練も日常的に継続する必要があります。そのうえで上記の行動療法を実践するとより効果的です



以上のような家庭での行動療法と同時に、それを補助する役割として薬物療法も利用されています。また、さまざまな疾病によっても異常な行動が見られることがありますので病院で診察を受けておくことも大切です。

不適切な行動や困った行動が見られたら、動物病院で相談してみましょう。